

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KIUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

# La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KIUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 809 julio 2018

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ  
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802  
KJUŜUA ESPERANTO-LIGO  
2-190, ŜISAIDO, TARAMI-ĈO, ISAHAYA-ŜI, NAGASAKI,  
859-0407, MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU  
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyô, Naruto-si,  
Tokusima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

## ENHAVO

第66回関西エスペラント大会	1-2
楽しい作文教室(83)	塚本 猛 3
Kajero Libervola: Deziro al la socio sennuklea	.....NAKAZIMA Tetuen 4
書評: Kie miozotas memor'	.....伊藤 俊彦 5
対訳: 源氏物語 第17帖 総合(1)	.....紫式部 / belmonto 6-7
2017年度KLEG活動報告	..... 8-10
2018年度KLEG活動方針	.....10
2018・2019年度のKLEG役員	..... 10
小西岳さん追悼	
小西岳さんから教わったこと	.....大信田 丈志 11
小西岳さんのこと	.....ふぢもと・たつを 11
Salono: 第92回九州大会について	.....原田 作 12
「熊本国際教育を進める会」で	.....野村 忠綱 12
初心者のための語尾なし単語の使い方(67)	相川 節子 12
La Movado: ロンドの活動ほか /	.....13
フレーム切手と小型日付印	.....13
Vortkruca enigmo / 作文教室成績	.....14
Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG 事務局だより	.....15
編集ノート	.....16

さまざまな「壁」を語りあって

## 第66回関西エスペラント大会

第66回関西エスペラント大会は5月26日(土)27日(日)の両日、大阪府吹田市の市立千里山コミュニティセンターで行われた。主催は関西エスペラント連盟(以下KLEG)と吹田エスペラント会。

参加者は180人。大会テーマは“Trans muroj, Trovu esperon! (壁をのりこえ、希望を!)”で、主要な講演のテーマにも取り入れられた。

### エスペラント講演

大会の公式招待者の韓国人女性、青遠(せと)ニカさん(通称Unika)が“Mi prezentas miajn murojn”をテーマに講演。自身の経験から、年齢の壁、性別の壁、アジアとヨーロッパの文化の壁などについて感じたことを語り、エスペラントによっていろいろな世界を知ったと話した。

### 開会式

エスペラント講演のあと、開会式が行われた。開会宣言に先立って、吹田市立第六中学校PTAコーラス同好会がピアノとオカリナの伴奏で、「小さな四季」「ブリーブ」など4曲を歌った。

司会の矢吹あさ糸さんと松川真木子さんによる開会宣言に続いて、宮前新子さんのピアノに合わせて“La Espero”斉唱。物故者への黙祷、新しくKLEG会長に就任した木元靖浩さんのあいさつと続き、吹田市長のメッ



写真: 堀田裕彦

セージが読み上げられた。日本エスペラント協会、九州エスペラント連盟、中国四国エスペラント連盟それぞれの代表あいさつも。今回は国外からの参加者が多く、Ho Song（韓国）Unika（韓国）Sara Spanò（イタリア）Francesco Maurelli（イタリア）Ran Luv（イスラエル）のみなさんがそれぞれ壇上に立った。Spanòさんは世界エスペラント協会を代表して、Maurelliさんは世界青年エスペラント機構を代表してのあいさつだった。外国人参加者の中には留学生ジュウ・ウオンジェさんの姿もあった。

KLEG 賞の授与では、本誌の「楽しい作文教室」を長く担当している塚本猛さんと、地域FMで「エスペラントって何？」の放送を続けている京都エスペラント会が受賞した。KLEG 奨学金は、日本の古典の翻訳をはじめ活発な著作活動をしているやましたとしひろさんに贈られた。

### 公開番組

1日目に、島谷剛さんを講師に入門講座が行われ、6人が受講した。

2日目の午後は、公開講演会が行われた。国立民族学博物館准教授の広瀬浩二郎さんは、『目に見えない世界』のフィールドワーク — 梅棹忠夫とエロシエンコの“夜”を比較する」という演題で講演。点字や紙の凹凸を使ったチラシや本の表紙の実物を見せながら、盲人と晴眼者がいっしょに楽しめる工夫を紹介した。また、博士論文のテーマに出口王仁三郎の思想を選んだのが縁でエスペラントについても調べたこと、エロシエンコの後半生は故国の盲人教育に力を注いでいたこと、65歳で失明した梅棹忠夫は失明を逆手にとって自分の業績をまとめることができた、など、エスペランチストであったふたりにとっての“夜”の意味を話した。「目に見えないが実在しているもののひとつが『エスペラント国』で、エロシエンコはこの国を旅した」と話を結んだ。

京都大学白眉センターの藤原敬介さんは、大阪大学のエスペラント講座をテーマに講演。川崎直一教授が講座を始めたこと、自分がタニヒロユキさんから講座を引き継いだこと、現在使っている教材や授業の内容について詳しく話した。また、言語としてのエスペラントについて「ここが変だ」と思う部分があることも指摘した。

ふたりの講演者はどちらもユーモアを交えた巧みな話術で聴衆を引きつけた。

2018.7

### 分科会

全部で13コマの分科会が行われた。

「作文教室」「日本の椿」「ザメンホフ没後101年クイズ」「高齢者エスペランチスト活性化」「国際貿易経済連盟日本支部」「エスペラントで歌いましょう」「科学者・医学者」「エスペランチスト囲碁協会」「日韓共同開催大会を盛り上げる」「外国人エスペランチストと話す会」「エスペラント会話教室」「かんさいアムリラート座談会」「エスペラントとアムリラートを考える」

今年は新しい分科会が多く、またエスペラント会話をテーマにした分科会のほかにも、外国人の出席によりエスペラントだけで進行した会があった。

### Gaja Vespero（楽しい夕べ）

まず、「みんなで歌いましょう！」合唱団 Heliko といっしょに、小西岳さんが作った歌や翻訳した歌を歌った。次に成田和子さんの日本舞踊「竹」。続いて馬場祝栄さんが「絵筆と鉛筆 気ままな旅」と題して、一茶や蕪村の俳句に絵を添えたものをパソコン画面で披露。最後は狂言「素襖落（すおうおとし）」を、島谷剛さん、岩田好兼さん、森均さんの3人が演じた。司会は坂田千香子さん。

### 懇親会

1日目の夜、会場近くの料理店「音羽鮎」で43人が参加して食事。田中一喜さんが司会をした。

### 大会前遠足

アサヒビール吹田工場を訪問、製造過程を見学した後ビールの試飲を楽しんだ。案内は田中一喜さん。

### ブース展示など

主会場の多目的ホールでは、コンピューターゲーム『ことのはアムリラート』とその関連グッズを販売するコーナーが作られ、また「漢方の近代化～遠田先生の夢と祈り」というテーマのポスター展示が行われた。別室では IKEF-JP（国際貿易経済連盟日本支部）が活動紹介を行った。

### 記念品

今回の記念品は椿油と、小冊子「日本の椿が世界をつなぐ」。矢野明徳さんの尽力で用意された。

### フレーム切手と郵便局

前川治哉さんが、大会のシンボルマークをあしらったフレーム切手を作成した。

両日とも、吹田千里郵便局が大会会場に出張し、小型日付印が使われた（p.13 参照）。



①窓の外では、雲が空に浮かんでいる。

【訳例 1】Ekster la fenestro ŝvebas nuboj en la ĉielo. (CA)

【訳例 2】Ekster la fenestro nuboj ŝvebas en la aero. (Ivajo) ⇨ 解説

【訳例 3】Ekstere de fenestro nubo ŝvebas en ĉielo. (festo)

「窓の外」は、訳例のように前置詞 *ekster* で表現できます。訳例 3 は "*ekstere de*" ですが、この組合せで *ekster* と同等の働きをします。似た使い方として *ene de* (～の中に)、*komence de* (～の始めに)、*pere de* (～を仲介として)、*okaze de* (～に際して) などがあります。

「空」は *ĉielo* (天、天国) でいいでしょう。他に *aero* (空気) も考えられます。JEI のエスペラント日本語辞典には、地上から見上げるのは *ĉielo*、鳥や飛行機の視点なら *aero* との説明があります。「雲」は *nubo* です。エスペラントの *ĉielo* と *nubo* は関係ありませんが、英語の *sky* (空) の語源は、古北欧語の *ský* (雲) らしいです。

「浮かぶ」には *ŝvebi* (空中に浮かぶ) が使えます。*ŝvebi* には、もっと動きのある用例として、ザメンホフ訳のアンデルセン童話に、*granda blanka cigno ŝvebis en la aero* (大きな白い白鳥が滑空していた) があります。似ていますが、*flosi* (浮かんでいる) は、*floso* (いかだ) のように水上に浮かんでいる場合に使います。

②ミミはケージの上に跳び、そこに立つ。

【訳例 1】Mimi saltas sur la kaĝon kaj ekstaras tie. (Fumi)

【訳例 2】Mimi saltas sur la kaĝon kaj tie ekstaras. (Ivajo)

【訳例 3】Mimi saltas sur kaĝo kaj stariĝas tie. (festo) ⇨ 解説

「跳ぶ」は *salti* です。*salti* のアクセントは "sa" に、*saluti* (挨拶する) のアクセントは "lu" にありますので、発音に気をつけていれば、綴りを間違えにくくなるでしょう。「立つ」には、*ekstari* や *stariĝi* が使えます。*stari* (立っている) は状態を表すので、

単純に *kaj staras* だけだと、そのまま立っているという感じがします。

訳例 3 は、*kaĝo* に対格語尾が付いていません。そのため、「ミミはケージの上で跳び、そこで立ち上がる」という意味になってしまいます。構文上必要ではありませんが、意味の違いが出ますので、方向を表す対格語尾にも注意が必要です。

③カーテンをよじ登ろうと試みる。

【訳例 1】Ĝi provas grimpi sur la kurtenon. (alfa)

【訳例 2】Mimi provas grimpi sur la kurtenon. (Fumi)

【訳例 3】Mimi provas grimpi sur kurtenon. (AG)

「よじ登る」は、物にすがりつきながら登るという意味の自動詞で、*grimpi ien* (よじ登る) で表現できます。この単語は *grimpi malsupren* (はい降りる) のように、降りる場合にも使えます。「カーテンを」になっていますが、エスペラントでも日本語と同じく自動詞なので、直接 *kurtenon* を使う事はできません。前置詞 *sur* を置き、*kurteno* には方向を表す対格語尾を付加します。

「試みる」には、訳例のように *provi -i* (試しに～してみる) が使えます。原文には主語がありませんが、おそらく猫のミミですので、*Mimi*、*ĝi* や *ŝi* も使えます。

④カーテンと天井の間の空間にさえ行く。

【訳例 1】Ĝi iras eĉ en la spacon inter kurteno kaj plafono. (CA)

【訳例 2】Mimi eniras eĉ en la spacon inter la kurteno kaj la plafono. (Fumi)

【訳例 3】Mimi eĉ atingis spacon inter kurteno kaj plafono. (AG)

天井：plafono。

「～の間」は、*inter* (～の間) で表現できます。「空間」には *spaco* が使えます。訳例 1、訳例 2 では、その空間の中に行く、入るとして表現しています。この場合も方向を表す対格語尾を使います。訳例 3 は *atingi ion* (達する) なので、やっとその隙間まで達したという感じでしょうか。

他に、*iri al la spacon* という形の解答がありました。位置を示すのではなく、方向を表すための前置詞、*al*、*ĝis*、*el*、*de* の後には、方向を表す対格語尾を使いません。

成績は p.14、新しい課題は p.15

NAKAZIMA Tetuen (Hukui)

福島の破局的原発大事故から7年。若狭の大飯原発の再稼働が、3号機が3月に、4号機が5月に予定されたため、そのことに抗議して、私は3月に関西電力本社前で抗議の断食を5日間行った。なぜそれをしたのか、仏教者の立場から、ブツダのことばにこと寄せて、「核なき社会」を目指す視点にふれながら、その思いを述べたい。

En 1983 en Kioto okazis la Tutlanda Kunveno kontraŭ Atomcentraloj. En la fakkunsido “Celante al la sennuklea socio” mi faris jenan apelacion kiel unu loĝanto kaj budhisto loĝanta en la regiono *Wakasa*. Mia penso neniom ŝanĝiĝis de tiam.

Feliĉaj kaj sekuraj ili estu.

Ĉiuj estaĵoj estu feliĉaj.

Kiuj ajn estaĵoj vivas -

timemaj aŭ sentimaj, senescepte,

longaj kaj grandaj,

mezgrandaj, mallongaj, etaj kaj fortaj,

videblaj kaj malvideblaj,

foraj kaj proksimaj,

naskitaj kaj naskotaj -

ĉiuj estaĵoj estu feliĉaj.

(traduko: *Gun'na Gerumo*, eksĉefo de Budhana Ligo Esperantista)

Ĉi tio estas la mesaĝo de Budho (Ŝakjamunio, kiu vivis antaŭ 2500 jaroj en Hindio) al ni, kiuj vivas en la moderna socio. Ĝis nun mi prezentis ĝin al aliaj en plejparte da okazoj. Ĉar, al mi ŝajnas, ke tiuj ĉi vortoj de Budho akre lumigas la krizon de modernaj civilizacioj kaj montras la vojon al “la sennuklea socio”.

Pri la utiligo de nuklea energio kaj por milito kaj por paco oni ne rajtas forgesi la vidpunkton, kiu inkluzivas “ĉiujn estaĵojn”. Mi pensas, ke nuntempe, kiam la krizon de formortiĝo frontas ne nur la homaro sed ankaŭ

2018.7

ĉiuj vivaĵoj, ni devas stari sur la grandskala vidkampo, kiu evitos tion.

Ni devas komence ŝanĝi la nuntempan socian strukturon, ke granda potenco prosperas sur diskriminacio kontraŭ malfortaj estaĵoj kaj viktimiĝo pro tio, kaj poste estimi ĉiujn personecojn egale, kaj rezulte garantii ilian “feliĉon, pacon, kaj trankvilon”.

Radioaktiveco malbone influas aĵojn en la teritorioj, unue subtilaj kaj nevideblaj, kaj due grandaj kaj videblaj. Sekve ni devas profundigi rekonon, ke precipe en la unua teritorio gravas la totala ekologio, kaj kompreneble necesas ankaŭ prizorgo al estaĵoj en la tiaj teritorioj.

Ni ne povas ignori la fakton, ke malriĉas imagipovo de tiuj loĝantoj, kiuj loĝas en grandaj modernaj urbegoj, kiuj estas malproksimaj de atomcentraloj, uraniaj ekspluatejoj, kaj disponejoj de nukleaj rubaĵoj. Ni volas severe retrorigardi nian malŝpareman vivon, esti solidara kun loĝantoj en malgrandaj regionoj, kaj trovi praktikajn metodojn por ekzisto kaj prospero. Se ni mencias la rilaton inter *Wakasa* kaj *Kansai* (aŭ *Tyûkyô*), defendi belan maron de *Wakasa*, kie oni povas ĝui fiŝadon, banadon en maro, turismon, ktp, estas certigi por ĉiuj ajn loĝantoj “feliĉon, pacon, kaj trankvilon”.

Atomcentraloj havas grandegajn riskojn. La homoj, kiuj promociis atomcentralojn kontraŭ granda sumo da mono malpurigita de radioaktiveco, devigis forvendi la vivon kaj la konsciencon de “la naskitoj”. Ili ankaŭ neniam rezignis tordi la vivon de “la naskotoj” kaj rabi ilian feliĉon. Mi kredas, ke estas necese plenumi nian grandan respondecon kaj prizorgon pri estontaj naskiĝontoj.

(編集部注)

筆者の中嶋哲演さんは福井県小浜市の古刹、明通寺(みょうつうじ、真言宗)の住職で、原発反対福井県民会議の代表委員、原発設置反対小浜市民の会の元事務局長です。

## Kie miozotas memor’

伊藤 俊彦 (愛知県)

Ed Borsboom 著, Internacia Esperanto-Instituto, 2017年, 165p

本書の著者の Ed Borsboom という名前を見て、私はかつて読んだ “Vivo de Lanti” の著者であることには気がついたが、それ以上のことは全く知らなかった。本書の紹介によれば、著者は 1936 年オランダ生まれで、1951 年以後のエスペランティスト。本書は彼の手になる人物エッセイを集めた本で、有名無名の 32 人のエスペランティストについて、さまざまな雑誌に発表された追悼文やインタビューなどの短い文章を収録している。B6 判よりもやや小さい判型、165 ページのつつましい小冊子で、発行部数は 220 部だが、それぞれの人物にまつわるエピソードを取り上げ、その人となりと時代のありようを照らし出す筆の冴えは見事である。私などの手には余本ではあるが、恐る恐る紹介を試みたい。

著者は本書で、カロチャイ、トンキン、ボウルトン、ワリヤンゲン、ランティなど、著名なエスペランティストについても取り上げている。カロロ・ピッチュ、エリ・ウルバノーヴァの小説の分析もある。藤本達生・ますみ夫妻やいとうかんじさんも登場する。また、著者は、アンドレオ・チェとの関わりが深く、彼についての言及があちこちにある。チェは、直接教授法、いわゆるチェ・メソッドを創出し、長くオランダに住み、IEI (Internacia Esperanto-Instituto) の指導者だった人物である (なお、著者にはチェの伝記 “Vivo de Andreo Cseh” もある)。

ドレーゼンについて、その複雑な人格を淡々と描いていて面白い。1927 年の世界大会の遠足で、他の参加者は三等車に乗っていたのに、「同志」ドレーゼンだけはひとり一等車に乗り、しかも黄色い手袋をはめていた。また、Walter Kampfrad という人物は、著者とのインタビューで、ドレーゼンはブルジョア的で、裏切者だったと評している。もっとも、この人物は、戦前は EKRELO (Eldon-Kooperativo por Revolucia Esperanto-Literaturo) の創立者としてマルクス主義やソ連に関するエスペラントの出版物を刊行したが、戦後は社会主義東ドイツで検察官として体制側のエリートになり、エスペラントからは遠ざかったのだが (なお、彼あてに、エスペラントを高く評価する手紙が届いていて、その差出人がブラ

ンケだったというエピソードも紹介されている)。

もっとも、本書で取り上げられているのは、そうしたエスペラント界の「名士」ばかりではない。むしろ著者には、無名の人たち、没後は忘れられた人々たちを忘却から救いたいという強い意図があり、とりわけチェ・メソッドに基づいて世界各地で精力的にエスペラントを教えた人たちのことを感慨深く回想している。熱心なあまりチェらとの確執を生じて破門され、やがて急死した女性 (彼女は eminenta nekonato と評されている)。オデュッセウスのごとく世界各地を放浪して (odiseo vagante) エスペラントを教え、その没年も定かでない男性。そうした世間的には恵まれなかった人物たちについて、書簡などに基づき、その人生を丁寧に通っている。また、父親が抵抗運動に関わって殺され、母親がワルシャワ蜂起のなかで死亡したポーランドの女性も登場する。彼女は 60 歳でエスペラントを学び、その後 20 年にわたり世界各地でエスペラントを教えたという。

以上の紹介からも見当がつくとおり、本書で取り上げられた人たちは、第一次世界大戦から戦間期を経て第二次世界大戦に至る激動の時代に多難な人生を辿っている。ソ連のドレーゼン、ヴァランキン、ミハルスキらは、大粛清のさなかの 1937 年に殺されている。また、オランダも、第二次大戦開戦の翌年の 1940 年 5 月、ドイツ軍に宣戦布告なしに侵攻され、それから 5 年にわたって占領下に置かれ、エスペラントは「危険な言語」とされた。オランダのエスペランティスト Leendert Deij は、労働者エスペラント運動の同志だったユダヤ人の男性がアウシュヴィッツへ送られ、殺害されたのを見殺しにしたことへの痛みを持ち続け、戦後、“Al la juda forirnto” という名高い詩を書いた。これは “Esperanta Antologio” に収録されている (同書に Lodewijk Cornelis Deij とあるのは誤りとのこと) が、本書でこの詩の作者に出会って、私は深い感動を覚えた。

あるエスペランティストは、「エスペラントを知ったことが私の人生の一里塚となった」、「エスペラントは私の人生を変えた」と述懐していて感慨深い。なお、本書の題名は、ミハルスキの詩 El Ciklo “Frenezo” VI の一節からとられており、miozoto はワスレナグサのことである。また、本書はウルリッヒ・リンス氏に捧げられている。

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

源氏物語 第 17 帖 総合 系あはせ

## We-Afase – Pentrajkonkuro (1)

*eljapanigis belmonto*

### 1) eksa Diserva Princino enpalaciĝas

La mikadino bonzino Visterio\* postule petis, ke la eksa Diserva Princino de *Ise* servu en la palaco. *Genĝi* estis maltrankvila, pensante, ke la Princino ne havas precipan kuratoron, kiu zorgas pri ĉiu detalo. Li timis, ke la eksmikado *Suzaku* aŭdos pri ŝia enpalaciĝo, kaj hezitis transloki ŝin al *Nideŭvin* ĉi-foje. Li afektis senkoncerna pri la afero, sed faris ĝeneralan preparon, zorgante kvazaŭ ŝia patro.

*Suzaku* sentis maldolĉa pri la konkludo, kaj ĉesis tutan komunikadon kun ŝi, por eviti ridon de la publiko. Sed ĝuste en la tago de ŝia enpalaciĝo, li donacis al ŝi multajn objektojn, precipe atente elektitajn; tre belaj estis la skatoloj de la kombiloj, la skatoloj de mantukoj, kaj la kestoj de parfumvazoj. Diversspecaj incensoj kaj vestaromoj odoris foren eĉ ekster cent paŝoj. *Suzaku* supozis trarigardon de *Genĝi*, kaj tial li preparis jam de antaŭe plej speciale, intence.

Kiam *Genĝi* vizitis, la eksa oficistino de la Diserva Oficejo montris ilin al li. Li prenis unu el la kombilskatoloj, kaj trovis ĝin fajne ĉizita tre bele, kaj tre rara. La utao estis algluita al elfadena ornama floro de la skatolo de la dekorkombiloj.

Mi ornamis vin kombile  
Ĉe l' forir' por Dio serve  
Post reveno via mire  
Di' avertas min observe

La ministro *Genĝi* trovis ĝin, kaj pensis *Suzaku* tre respektinda kaj kompatinda. Li fariĝis sinkritika pri virinoj. Kiam ŝi mal-supreniris al *Ise* kiel Diserva Princino, *Suzaku*

\* *Fudi-tubo*. 藤壺

前齋宮の御参りのこと中宮の御心に入れてもよほしきこえたまふ。こまかなる御とぶらひまで、とり立てたる御後見(うしろみ)もなしと思(おぼ)しやれど、大殿(おほと)のは、院に聞こしめさむことを懼りたまひて、二条院に渡したてまつらむことをも、この度は思しとまりて、ただ知らず顔にもてなしたまへれど、おほかたの事どもはとりもちて、親めききこえたまふ。

院はいと口惜しく思しめせど、人わろければ、御消息など絶えにたるを、その日になりて、えならぬ御よそひども、御櫛の箱、うちみだりの箱、香壺(かうご)の筥(はこ)ども世の常ならず、くさぐさの御薫物(たきもの)ども、薰衣香(くぬえかう)、またなきさまに、百歩(ふ)の外(ほか)を多く過ぎ匂(には)ふまで、心ことにととのへさせたまへり。大臣(おとど)見たまひもせんにと、かねてよりや思し設(まう)けけむ、いとわざとがましかむめり。

殿(との)も渡りたまへるほどにて、かくなむと女別当(によべたう)御覧(らん)ぜさす。ただ御櫛の箱の片つ方(かた)を見たまふに、尽きせずこまかになまめきてめづらしきさまなり。さし櫛の箱の心葉(こころば)に、

わかれ路(ぢ)に  
添へし小櫛(をぐし)をかごとにて  
はるけきなかと  
神やいさめし

大臣(おとど)これを御覧じつけて、思しめぐらすに、いとかたじけなくいとほしくて、わが御心のならひあやになる身をつみて、かの下(くだ)りたまひしほど、御心に思(おも)ほしけんこと、かう年経(へ)

kaŝis amon al ŝi, kaj post multaj jaroj, kiam ŝi revenis al la Urbo kaj li fariĝis libere konfesi al ŝi, la cirkonstanco estis ŝanĝita kontraŭ lia volo.

“Kiel li konjektas? Post la abdiko de la trono, lia ĉirkaŭo fariĝis kvietaj. Ĉu li malŝatas tian situacion?”

Genĝi kompatis lin kun afliktiĝo.

“Se tio okazus sur mi, mi estus tute embarasita.”

Lia serioza pensado daŭris.

“Ho, kial mi elpensis ĉi tian kaprican planon, kio dolorigas lin! Mi estis antipatia kontraŭ li antaŭ jaroj, sed nun li estas mia ĝentila kaj sopirinda frato.”

Li dronis en profundan meditadon pro ĉagrenoj. Li demandis.

“Kiel estos la respondo al *Suzaku*? Kia estis lia letero?”

La eksa oficistino hezitis kaj ne montris al li la leteron pro maloportuneco. La Princino afliktiĝis, kaj malŝatis skribi la repondon en langvoro.

“Ne respondi estas ne ĝentile nek estiminde.”

Genĝi aŭdis la ĉambelaninojn riproĉe rekomendi al ŝi skribi. Li admonis.

“Ne okazebla rifuzo! Skribu nur iom, nur nominale.”

Ŝi estis hontema, sed rememoris la antaŭan jaron, kiam *Suzaku* ploreĝis en la tre gracia figuro, kion ŝi vidis kun emocio ial en sia infanca animo. Tiu afero ŝajnis kvazaŭ antaŭ okuloj, sed jam antaŭa. Ŝi sinsekve rememoris la forpasintan patrinon malĝoje, kaj nur utais ĉi tiun.

Antaŭjara “Ne revenu”

Vorto via ĉe disiĝo

Post reven' ĝin ĉu mi tenu

Kun malĝoj' sen okupiĝo?

Oni donis multajn donacojn al mesaĝistoj laŭ rangoj. La ministro deziris legi la repondon pasie, sed ne povis peti de ŝi.

(daŭrigota)

て帰りたまひて、その御心ざしをも遂(と)げたまふべきほどに、かかる違(たが)ひ目(め)のあるを、

「いかに思すらむ。御位を去り、もの静かにて、世をうらめしと思すらむ」

など、我になりて心動くべきふしかな、と思しつづけたまふに、いとほしく、

「何にかくあながちなる事を思ひはじめて、心苦しく思ほしなやますらむ。つらしとも思ひきこえしかど、またなつかしうあはれなる御心ばへを」など、思ひ乱れたまひて、とばかりうちながめたまへり。

「この御返りは、いかやうにか聞こえさせたまふらむ。また御消息(せうそこ)もいかが」

など聞こえたまへど、いとかたはらいたければ、御文はえひき出でず。宮は悩ましげに思して、御返りいともうくしたまへど、

「聞こえたまはざらむも、いと情(なさけ)なくかたじけなかるべし」

と、人々そそのかしわづらひきこゆるけはひを聞きたまひて、

「いとあるまじき御事なり。しるしばかり聞こえさせたまへ」

と聞こえたまふも、いと恥づかしけれど、いにしへ思し出づるに、いとなまめききよらにて、いみじう泣きたまひし御さまを、そこはかたなくあはれと見たてまつりたまひし御幼心(をさなごころ)も、ただ今の事とおぼゆるに、故(こ)御息所(みやすむどころ)の御ことなど、かきつらねあはれに思されて、ただかく、

別るとて

はるかにいひしひとことも

かへりてものは

今ぞかなしき

とばかりやありけむ。御使の禄(ろく)品々(しなじな)に賜はず。大臣は御返りをいとゆかしう思せど、え聞こえたまはず。

(続く)

## 2017年度KLEG活動報告

2017年度に峰芳隆さん、小西岳さんが相次いで亡くなった。ふたりとも、長年KLEG活動に貢献し、KLEGを支えてきた重鎮である。日本のみならず、世界のエスペラント界にとっても大きな損失である。

### 1. 各種行事

第65回関西エスペラント大会は、6月3日、4日に豊中市の大阪大会会館で豊中・池田両ロンドの主催で開催され、参加者は182人であった。外国からは、招待したインドのKOTHA Naga Siva Kumarさんのほか、韓国からHO SongさんとKIM Onnuri (通称 Onia) さんが参加した。

公開番組では、全盲の落語家、桂福点さんがまずエスペラントと自分とのかかわりを語ったあと、盲学校の後輩が駅のホームから転落して亡くなり、同じ事故を二度と起こさないようにと願って、落語「駅で落ちない話」を創作したいきさつを話し、それを上演した。次に大阪大学混声合唱団 TEMPEST が団歌を日本語で、「フィンランディア」と「翼をください」をエスペラントで歌い、聴衆を楽しませた。最後に堀泰雄さんの講演。日本社会の出来事をエッセイに書き、それをまとめて毎年本を発行して20年になること、東日本大震災後は現地のように自ら携わっている被災者救援活動、自ら考案した「エスペラント読書大相撲」など、エスペラントを使って実践したさまざまな活動について講演した。公開番組には40人を超える一般市民が参加した。

第49回エスペラント林間学校は、9月16日、17日の両日、昨年と同じ、エスペラント会館（京都）で開催された。運悪く台風接近で、参加を取りやめた人もいたため、参加者は20人と例年より少なかった。

授業は3クラスに分かれて行われた。初級作文教室、講師は相川節子さん。初級文法教室、講師は田熊健二さん。中級会話教室、講師は韓国の Shin Eun-sook, 通称 Songanta さん。

分科会は2つ。「訳しやすい関係詞、訳しにくい関係詞」というテーマで田熊健二さんが話した。また、Songanta さんが7月にソウルで開催された “Internacia Infana-adoleskanta Kongreseto (IIK)” で行った活動を画像を使って説明した。

2018.7

### 2. アジアとの連携

毎年関東大会と協力して、アジアの青年を両大会に招待しているが、今回招待したインドの KOTHA Naga Siva Kumar さんは地元ベンガルールのエスペラント運動、インドの祭りや料理について講演した。

### 3. その他のKLEGの活動

第102回世界エスペラント大会 (UK102) は、7月22日～29日の8日間、韓国ソウルの韓国外国語大学で開催された。参加者は61か国から1173人。日本からの参加者は194人であった。KLEGは19人の旅行団を出して参加し、それぞれが多くのプログラムから自分の好みに応じて選び、大会を楽しんだ。旅行団は大会後、百済の古都扶余(プヨ)と韓国第2の都市、港町釜山を観光し、31日に帰国した。

第104回日本エスペラント大会は11月3日～5日横浜市の神奈川県立かながわ労働プラザで開催され、459人が参加した。内、外国からは11か国から23人。

島谷剛さんが、『今昔物語集』翻訳や狂言の翻訳などで小坂賞を受賞し、受賞講演を行った。また、文芸コンクール翻訳の部で2等に白川友磨さんの “Venas aŭtuno” が入賞した。

ワン・ワールド・フェスティバル (OWF) は、2月3日、4日に開催され、展示と講演で5回目の参加をした。展示ブースには多くの人が訪れ、チラシを約500枚配布した。エスペランティストも延べ35人が見学や手伝いに来た。講演は昨年と同様の「ワクワクする国際語エスペラントの世界」と題して行い、盛況であった。

### 4. 加盟ロンド(地方会)の活動

入門講習会は7ロンドが1日講習などさまざまな形で延べ9回開催(受講者36人)し、エスペラントを広報する各種の展示会は、8ロンドがそれぞれに地元の市民文化祭などに参加して延べ13回開催した。ザメンホフ祭は近隣ロンドによる共同開催で、5か所、延べ106人が参加した。

池田：年4回俳句の会を開催し、「モバード俳句」に投稿した。狂言をエスペラント訳して関西大会で「附子」、ザメンホフ祭で「宝の槌」を上演した。

宇治城陽：7月18日に創立50周年を迎え、カラー表紙の記念号 Verda teo118号に多方面からのメッセージ、会員の投稿、年表や会員名簿も掲載した。

近江：会員の檜山秋彦さんが第103回 JEK 開催の功績で KLEG 賞を受賞。その賞金でエスペラント辞典などの図書をヴォーリズ学園に寄贈した。

大阪：機関誌 La Voĉo は例年通り毎月発行を続けている。ソウルで開催された世界大会に会員4人が参加し、それぞれに大会を楽しんだ。

京都：京都府庁主催の観芸祭に初めて参加し、10月26日・27日に京都府庁の旧議場で展示とステージ（歌、踊り、寸劇など）を行った。

神戸：ホームページの充実をはかった。週3回の週例会、月例講座、年2回の啓蒙活動。隔月の機関誌 SENLIMO の発行。

堺：毎週1回の週例会（学習会）と、月1回の月例会を継続中。ソウルで開催された世界大会に会員1人が参加。機関紙 Fontejo1 回発行。

吹田：11月3日、吹田市民文化祭で「お話し会とエスペラント体験」を開催した。お話しは桂福点さん、エスペラント体験は、講師に川村泰範さん。

高槻：高槻市と中国常州市の友好提携30周年記念事業に招かれた常州市少年宮芸術団が当市五百住小学校への訪問・交流を希望、当会の支援で成功。

豊中：関西大会を大阪大学会館で開催した地の利を活かして、豊中市機関（公民館・国際交流センター・市民情報サロン）との協力・活用を強化できた。

富田林：若い2名の新入会者があり、会の平均年齢が大幅に若くなった。1人はエスペラント学習に役立つイラスト作成に頑張っている。

奈良：奈良市で開催される日韓共同開催大会に向け、記念出版の素材集めや原稿作成、大会後遠足の企画、LKK 委員としての活動など会として協力している。

はりま：姫路学習会、スカイブ例会継続。「(会創設者の一人) 峰芳隆さんをしのぶ会」に38人。姫路市の秋と春の国際交流行事に参加、展示とミニ講座。  
枚方：1Day フェスティバルでの展示会を継続。在外会員や旧会員との懇親会も実施。会員は国内外の行事や各種委員会等への協力の幅を広げている。

## 5. 各部局の活動

組織部：活動年鑑 Jarlibro de KLEG2017 を発行した。第65回関西大会に協力した。2018年度開催の第66回大会に向けて吹田エスペラント会と協力し、アジアから招待する青年の交渉に当たった。2月に大阪市で開催された「第25回ワン・ワールド・フェスティバル」に5度目の参加をし、ブース展

La Movado 809

示と講演を行った。運動記事の収集で編集部にも協力した。

国際部：第102回世界エスペラント大会は韓国のソウルで開催され、19人の旅行団を出した。

図書部：島谷剛訳「Noaj komedioj」を刊行した。図書目録2017を刊行した。La Movado 誌に毎月号、図書広告を掲載した。行事（大会・林間学校・ザメンホフ祭）での販売を事務局の全面的な協力を得て行った。メールによる新着図書の案内「Novaj libroj」の発信は事務局に委ねている。

編集部：La Movado を毎月第3土曜日に発行した。紙版だけでなく、視覚障害者には電子版も送っている。昨年に引き続き今年度も、適任の執筆者を得て対訳文学作品と書評を掲載している。理事・監事を加えた拡大編集会議を毎月行い、原稿依頼にも理事会の協力を得ている。

教育部：9月に第49回林間学校を開催し、20人が参加した。メーリングリスト「IETK」を国際部と協力して運用した。

事務局：当直者・局員の継続した努力によって、連盟およびモバード社の日常業務を遂行した。関西大会など各種行事での図書販売や棚卸しでは会員有志の支援を受けた。会員や読者でない人に La Movado 見本や図書目録を送るなど、新規読者勧誘活動を継続的に行っている。図書部と協力して Novaj Libroj（メール版）を発行した。第66回関西大会の受付業務を行っている。会員の蔵書を引き受けて、整理、処分を行った。ホームページの維持には、引き続き山野敏夫さん（豊中）の支援を得ている。

## 6. KLEG 賞・KLEG 奨学金（2017年度）

KLEG 賞は、京都エスペラント会と塚本猛さんに授与される。京都エス会は2016年3月より FM79.7 京都三条ラジオカフェで「エスペラントって何？」という番組を毎月第2・第4水曜13:04から6分間放送するというユニークな活動を継続していることが評価された。塚本猛さんは、La Movado 誌上で「楽しい作文教室」をわかりやすく指導してきた。連載は80回を数えるに至り、さらに継続することが期待される。

KLEG 奨学金は、やましたとしひろさんに授与される。La Movado 誌で古典の翻訳を連載し、2017年には、『源氏物語より六帖』を発行し、分

野の違う『エスペラントのためのスマホ・インターネット技術集』や『さっさとエスペラント 文法マスター 第2版』を発行した。また、「さくら教育放送」を行っているなど幅広い活動を行っていることが評価された。

## 7. 組織状況

加盟団体数に変更はなく、次の17 Rond。池田、茨木、宇治城陽、近江、大阪、京都、神戸、堺、吹田、高槻、豊中、富田林、長浜、奈良、はりま、枚方、和歌山（緑丘会）。

2018年3月末現在の団体会員は217人（前年224人）、個人会員は56人（同57人）。

## 2018年度 KLEG 活動方針

### 1. 日韓共同開催大会の成功のために

2018年10月に日韓共同開催エスペラント大会が、奈良市を会場に行われる。KLEGが地元実行委員会（LKK）として準備を進めている。準備・運営には多くの人手が要り、会員が一致協力して大会を成功させたい。

### 2. Rond活動を工夫して活性化し、会員の増加を

従来実施してきた講習会や展示などの活動に加え、インターネットの活用を工夫し、Rond活動の活発化に取り組み会員増加につなげたい。

### 3. 教育の推進と会員の能力向上

林間学校や関西大会での学習分科会などで学習の場を提供する。Rondでも学習方法・手段を創意工夫し、能力の向上に結び付けたい。

### 4. アジアのエスペランチストとの交流

関西大会に日本在住の韓国人、青遠（せと）ニカさんを招待する。また、日韓共同開催エスペラント大会が奈良市で行われ、多くの韓国人が参加予定である。この機会も含め、来日外国人エスペランチストとの交流を積極的に進めたい。

### 5. 青年エスペランチストに対する支援

青年奨学金や会費の半額割引など、青年に対する支援を行っている。青年会員増加のために大いに利用してほしい。

### 6. 活動のノウハウを継承する

これまで行ってきた活動の経験・知識・技術などを今後の活動に資するため、活用しやすい文章にまとめる。

### 7. 具体的事業計画

2018.7

- (1) 第66回関西エスペラント大会開催
- (2) 第50回エスペラント林間学校開催
- (3) ワン・ワールド・フェスティバルに出展する
- (4) 活動年鑑 Jarlibro 発行
- (5) 出版：第105回日本大会（2018年・日韓共催）の記念出版、“Lingvo stilo formo”（復刻版）の刊行、『俳句の作り方』の増刷、『エスペラント会話教室』の増刷、図書目録2019
- (6) La Movadoの定期（月刊）発行
- (7) 加盟Rondにおいて適宜、例会、講習会、ザメンホフ祭、機関誌発行、展示会を行う

## 2018～2019年度のKLEG役員（敬称略）

2018年5月の総会において、役員の変更を行い、新役員が選出された。

### 2018～2019年度役員

顧問：赤田義久、大塚穎三、川野邦造、岸田準二、田熊健二（新）、藤本達生、前川治哉  
会長：木元靖浩（新）、副会長：相川節子、専務理事：中道民広、理事：島谷剛（新）、染川隆俊  
事務局長：中道民広  
組織部長：田熊健二（新）  
教育部長：島谷剛（新）  
国際部：休部  
図書部長：染川隆俊  
編集部長：相川節子  
監事：田中一喜（新）、山本徹

### 関西エスペラント連盟会長就任のごあいさつ

木元 靖浩

皆様、5月20日（日）の関西エスペラント連盟（KLEG）総会で理事会提案が承認され、KLEG会長に就任しました木元靖浩です。

御承知のようにエスペラント界を取り巻く環境は社会の変化によって変わってきています。この中で、関西のエスペラント界の基盤ともいえるKLEGを、自身の身の丈に合わせながら、維持・発展を目指し、会長職を務めて参りたいと思います。

しかしながら、前任者を含むKLEG歴代の委員長や会長に比べ私は非力な者です。これまでも増して会員の方々のお力添えを賜りたいと存じます。

## 小西岳さん追悼

### 小西岳さんから教わったこと

大信田 丈志 (鳥取県)

はじめて Perfektiga Kurso の上級クラスで教えるを受けて以来、さまざまな機会にいろんなことを教わってきたように思います。思い出すまま断片的に書き綴ってみます。記憶違いもあるかもしれませんが何卒ご容赦ください。

私は大学最初の何年かは、Friska Lernejo や Perfektiga Kurso では小西岳さんの講座に参加していたのですが、あるとき自習クラスというもののできたので、こともあろうに私は量子力学の英語の教科書を持ち込んで専門用語を拾ってはエスペラントに直すということをしていました(一応言い訳をすると、小西岳さんが「間違いがあるので良い」と言っていた Schiff の教科書です: La Movado 1990年9月号参照)。Paradizo で小西岳さん相手にエスペラントで量子力学の質問をするという無謀なことをしましたが、なにしろこちらは物理初学者だったもので、おっしゃっていることはさっぱり分かりませんでした。後日になって小西岳さんから、エスペラント書きの計算プリントが郵送されてきました。境界条件を randokondiĉo ということ、egalajo (等式) と ekvacio (方程式) の区別があることなどを学びました(全くもって量子力学以前の話!)

合宿の夜の時間には、歌の訳を見ていただいたこともあります。私の訳詞で ...povas vi / ... povas vi となっていた箇所を、こういうときは後の行を provas vi とするといい、と教わりました。

これは Friska Lernejo か関西大会か忘れましたが、あるとき、私が歌の分科会か何かを任されて、Edelvejs' を何人かで歌っていたときのことで。たまたま近くにおられた小西岳さんから待ったがかりました。そこの“frosta neĝer”のところは音をのぼすのではなく休符が入っているはずだ、と。…確かに言われてみればそうなのです。原詩の blossom という語のリズムまでエスペラントで再現しようという小西岳さんの意図にそのとき初めて気づいたのでした。

### 小西岳さんのこと

ふぢもと・たつを (京都府)

ヨーロッパで生まれていれば、岳さんは、いちいち“D-ro Konisi”と呼ばれていたはずである。それは、我々は「リンス、リンス」と呼んでいるが、あちらの人たちは“D-ro Lins”と言うているからわかることである。

もっとも、UEA の元事務局長であって今は故郷に帰っている S-ro Milojeviĉ などは、日本に来た時、岳さん宅へも寄ったらしく、彼は“Gaku...”と呼んでいた。

岳さんを初めて見たのは、梅田のすぐトナリの阪急中津駅の近くにあった、KLEG の旧事務所においてだったと思う。KLEG の一年間の予算が 24 万円だったと覚えている。これは 1959 年のことで、この年わたしは La Movado の編集部長になった。事務所には、いつも宮本正男さんがいて、何かしら、仕事をしていた。このころ、小西岳さん(多分、大学院生か助手ぐらいか?)が顔を出し、また、時々、若い女性が訪れてくるのだった。この女性が、小西岳さんの奥方になった「ちよ」さんなのである。このちよ夫人は、私の見るところ、きわめてユニークな女性で、話をすれば面白いヒトにちがいないと考えている。

岳さんの歌の翻訳は天下一品、それで私は歌の訳には手をつけていなかった。そんなことを言えば、宮本正男さんでも手を出さなかった。

実は、もう何年も前のことになるが、私は一度、柄にもなく、ある歌を訳してみたことがあった。この歌は、うちの「ますみ」さんが学生の頃、音楽の時間か何かに、作曲するように…と先生に言われて、作曲したものだとのこと。“からまつの林を過ぎて……”という、歌いやすい曲である。これを、わたしなりに訳して、歌詞と曲がうまいこと合っているか岳さんに見てもらいたいと思って送ったところ、実に詳しくというか、いろいろ、まさに、ご教示を得た…というテンサクぶりであった。これはその後、わたしの不徳のいたすところで、おくら入りとなり、どこにも発表しなかったと覚えている。

正男逝き、  
ショージも逝きて  
Takeuĉi も  
峰芳隆も  
コニシ・ガクまで



## 第 92 回九州エスペラント 大会の小泉八雲邸へ

原田 作 (熊本県)

観光に入れていた「小泉八雲邸」ですが、坂本弘敏館長に会うチャンスがあり、九州大会の

お話をしてきました。前から Ekskurso の事はハラダが考えていて、韓国の Unika 夫婦が熊本に来た際、八雲邸に連れて行きました。その時、館長にはエスペラントの事を説明して（何語で話しているのか、と聞かれたのが出会いのきっかけで、ハラダが名刺を渡して大事に持っていらっしやいました）、ハラダの事とエスペラントの事はよく覚えていらっしやいました。

「地震が原因で全部は見せられないけど、地震の状態も知って欲しい」と思っていました。修理が完了して今は前と同じように小泉八雲邸が見せられるようです。普通は、よその大会のチラシを置くことは出来ないが少しならいい、と言ってくれました。

前のままの小泉八雲、ラフカディオ・ハーン邸を見せることが出来るようでほっとしています。地震の時の状態の写真も置いてありました。

10月20日現在は国際交流会館に荷物も置くために、集合するようにしています。20日13時まで国際交流会館に着くことが出来る方はハラダのメールアドレス [takinulo@gmail.com](mailto:takinulo@gmail.com) まで連絡下さい。

故森真吾さんのお話も娘さんから聞けるので楽しい大会になることを望んでいます。

### 「熊本国際教育を進める会」で発言

野村 忠綱 (熊本県)

5月12日私が会員になっている熊本国際教育を進める会の、総会、自由討議「今後10年の活動を考える」及び熊本東海大学教授高田修平氏による講演「現代社会における人文科学の役割」が行われた。

私は自由討議では二度発言し、エスペラントをこの会の活動の中に位置づけることを提案した。講演に対しては、英語における新しい語義、新しい文法上の意味はどうしても英語を母語としている人の意見が入りやすいのではないかと、そこに英語を母語としていない人との間に差別が生じているのではないかと発言した。

2018.7

この会の会長は熊本学園大学の英語の教授であるけれども、この回の終了後、散会後に、私に発言に対するお礼を述べられた。少ない会員の一人に対する会長としての配慮だったのだろう。

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (67)

相川 節子

定冠詞 la (つづき)

③ その他のケース

「話し手と聞き手にとって既知のもの」「未知か既知かにかかわらずあるはずのもの」以外に、「総称用法」と呼ばれる使い方があります。「そもそも～という物は」というニュアンスで使うのですが、これは初級者・中級者が気にする必要はないと思います。“La hundo estas fidela besto”という文も、“Hundo estas fidela besto”という文も、ニュアンスの違いはありますが同じことを言っているからです。

ちょっと迷うのは言語名でしょうか。たとえば *japana lingvo* か *la japana lingvo* か。わたしは先輩から、「ひとつしかない物には定冠詞がつきま。 *japana lingvo* はひとつしかないから *la* をつけなさい」と教わりました。でも実際にいろいろな本を見ると、言語名に *la* をつける人とつけない人とがいるようです。

ただし、次のように *lingvo* を省略する場合には必ず *la* がつきます。

*La preleganto parolis en la hispana, kaj la interpretisto tradukis en la japanan.*

(講演者はスペイン語で話し、通訳が日本語に訳した)

山の名前、川の名前、都市の名前もよく迷います。これについては小西岳著『エスペラント文法の散歩道』の「*la* の用法」の項が参考になります。

ロシア語やポーランド語には定冠詞がありませんから、定冠詞の用法で苦勞する人たちがいることをザメンホフは知っていました。「迷ったときは、定冠詞をつけないでください。定冠詞があるべきところに欠けているより、ないはずのところ定冠詞が使われている方がよくありません」という意味の説明が“*Lingvaj Respondoj*”に書かれています。

[この項おわり]

## 棗荘大学で、四年制のエスペラント課程

中華人民共和国山東省棗荘市の棗荘 (Zaozhuang) 大学で、四年制のエスペラント課程が9月開設予定。教員と学生は全国から募集。卒業生は国家公務員出願資格が得られる。 [←佐々木 照央, Sato Ryusuke]

## JEI での土曜エスペラント会へ参加を

5月は19日15時15分～17時45分に開催され、出席した10人で「ロヒンギャ難民」、「国土地理院の地図」、「分子栄養学」、「ケン・リュウ著『紙の動物園』」、「スト好きな国フランス」について2時間半エスペラントだけで議論した。以降は6月9日、7月14日、8月18日(第2または第3土曜日)の午後(15時15分～17時45分)にJEIで開催の予定。問合せは山川修一さん <shu@gol.com> へ。

## ロンドの活動

**神戸エスペラント会**：4月14日(土)13時～青少年会館サークル4で総会を開催した。出席6人、委任状16人。議長に磯貝尚武さん、書記に藤田紘子さんが選出され、2017年度の各種報告、質疑応答、規約改正等が了承された。

**香川エスペラント会**：例会はアイパル香川にて、毎月原則として第4日曜日の13時半～15時半。

**東かがわエスペラント協会**：毎月第2木曜日19時～21時に例会、テキスト“Kunvojaĝu”。

**普通寺エスペラント会勉強会**：例会は「ルコルシー」にて、毎月原則第4土曜日の15時～17時。

**福岡エスペラント会**：5月8日(火)アクロス福岡で初心者向け1日講習会。参加3人、講師：武藤たつこさん。5月20日(日)16時～19時に福岡市国際会館で月例会。参加者8人。輪読“Vojaĝo kun Katrina”、お話し、歌、作文など。6月は6月17日(日)月例会、6月19日(火)初心者向け1日講習会。 [←武藤 たつこ]

**池田エスペラント会**：5月19日(土)夏の季語で俳句の会。会員が詠んだ句を添削して、「モバード俳句」へ投稿した。 [←島谷 剛]

**宇治城陽エスペラント会**：6月3日(日)に蛍狩りを行った。参加者は京都エスペラント会会員を含め5人。近藤聡さんの自動車に同乗して、宇

治市植物公園のイベント「蛍ナイター」を訪ねた。まず蛍についての展示を見たあと屋外の経路に出て、点滅しながらゆったりと飛ぶ蛍を鑑賞。初対面どうしの参加者もいたので、帰路は喫茶店に立ち寄りおしゃべりをした。 [←相川 節子]

## 第92回九州エスペラント大会

期日：2018年10月20日(土)～21日(日)  
会場：熊本市国際交流会館

## 第19回中国・四国エスペラント大会

期日：2018年10月27日(土)～28日(日)  
会場：国民宿舎「仙酔島」(広島県福山市)

## 第2回日韓共同開催エスペラント大会

第105回日本エスペラント大会

第50回 韓国エスペラント大会

La 2-a Komuna Esperanto-Kongreso de Japanio kaj Koreio

La 105-a Japania Esperanto-Kongreso

La 50-a Korea Kongreso de Esperanto

日時 2018年10月12日(金)～14日(日)

会場 奈良県文化会館、ホテル日航奈良

前川治哉さん  
作成のフレー  
ム切手と、  
関西エスペ  
ラント大会へ出  
張した、吹田  
千里郵便局の  
「小型日付印」



日市郵原

NIPPON 82



# Vortkruca enigmo

## Redakcio

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros nomon de legomo, kiun oni rikoltas el tero.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de julio, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retroŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4	5	6	7	8
		*					
9					10		
*							*
12					13	14	
15				16			
				17			
					*		18
19	20		21			22	
			*				
	23					24	25
	*						
26			27				
						*	
28						29	

**Horizontale:** 1. Pando manĝas ~on.(x) 6. Vaste konata.(x) 9. Brazilo estas en Ameriko kaj Aŭstralio estas en ~o.(x) 11. Por ~ lingvo estu internacia, ne sufiĉas nomi ĝin tia.(x) 12. Unuo de longo.(x) 13. Vesto por mano.(x) 15. Profesie aĉeti kaj vendi uzitajn aĵojn, ekzemple librojn aŭ vestojn.(x) 17. Prefikso signifanta parencon per geedziĝo.(x) 18. Mi legas la libron ĉiutage ~ kvin paĝoj.(x) 19. Mi kaj vi, mi kaj ili.(x) 21. Dividita kaj disdonata parto de manĝaĵo. (x) 23. ~i pro timo.(x) 24. Sufikso signifanta "nepre esti ~ata".(x) 26. Prepozicio montranta kvanton aŭ nombron.(x) 27. La kuracisto konsilis, ke li ~e ne fumu.(x) 28. Promono de la tria personalo.(x) 29. Veturilo iranta sur ŝoseo, 2018.7

plejofte publika.(x)

**Vertikale:** 1. Sukeraĵo malgranda kaj ne mola.(x) 2. Arbo, kies folioj fariĝas bele ruĝaj en aŭtuno.(x) 3. "Ĉe~o" estas konata kiel maniero instrui Esperanton.(x) 4. Akvo-veturilo simila al boato.(x) 5. Mallongigo de Unuiĝintaj Nacioj.(x) 7. Haŭta malsano ofta ĉe adoleskanto.(x) 8. Subtera fervojo.(x) 10. Intence ne atenti.(x) 14. Participo prezenca. (x) 16. Malamegi pro ĝia eco.(x) 18. pingl-arbo amata de japanoj.(x) 20. Romo estas la ĉefurbo de ~io.(x) 21. kloporo multe.(x) 22. Organo, kiu funkcias por percepti, pensi kaj analizi.(x) 25. Prefikso signifanta dividon en erojn aŭ foriĝon en diversaj direktoj.(x) 26. Venuso estas ~o de belo kaj amo.(x)

## La solvo al la maja enigmo: PURPURO

La ĝustan solvon donis 13 legantoj:

武藤たつこ,  
水渡篤子,  
中村文雄,  
濱田國貞,  
平井倭佐子,  
西千寿子,  
久保田俱視,  
前藤寛, CA,  
Sayuri, TADA,  
Grebo, Kacu.

E	L	E	F	A	N	T		D
K	A	P	E	L		U	E	A
Z		I	L	U	S	T	R	
E	D	Z		D	E		A	S
M	I	O	P		S	A	R	K
P		D	A	T		K		A
L	I		S	E	K	R	E	T
E	N	V	I		O		G	O
R			E	V	E	N	T	L

## 楽しい作文教室 (83) 成績

11 人の方から応募がありました。( ) 内は留意事項です。

うん、良いね : Fumi, M.H.

良いね : Drako (① ĉelo), AG (② Salutinte), CA, Ivajo (④ prafono), Eiko (① ŝvevas), ikona, Haveno (① ŝvevas), festo, alfa(spacio).

もうひといき : 無し。

## Mikspoto (当欄は敬称略)

★梅田茶屋町の画廊「4匹の猫」(大阪市北区茶屋町5-2 電話06-6359-6516)で展覧会「あなたの賢治を探しにきてください」が、6月21日(木)～26日(火)に開催される。12人の作家が絵画、オブジェ、ニットなど多彩な技法でそれぞれの宮沢賢治の世界を表現する。会員・桜井大二郎の紹介でKLEGは翻訳書の紹介など展示に協力する。 [←染川隆俊]

★4月28日付「上毛新聞」が「世界共通語、エスペラント語を通じて福島第1原発事故と住民の思いを世界中に伝えようと、前橋市大利根町の堀泰雄さん(76)が被災者の俳句や短歌を訳した冊子『ふるさと福島を詠む』を出版した」と、冊子と堀さんの写真入りで報じた。5月14日付朝日新聞群馬版にも写真入りで同様の記事。 [←田平 正子]

★5月3日付「朝日新聞」福井県版が「憲法を考える 下」欄で「平和を守る 手放さない」と題して、小浜・九条の会の北川昭二さんの「九条の会」活動について。「国際共通語の『エスペラント』の普及活動にも力を入れている」と。 [←北川 昭二]

★岩波のPR誌「図書」5月号の加藤典洋の「大きな字で書くこと」に故由比忠之進について「老エスペランティストが抗議の焼身自殺をはかったという報道に接し」羽田闘争に参加したと。 [←瀨田 國貞]

★「治安維持法と現代」2018年春号に越山のぶ子が『「長谷川テル ヴェルダ・マーヨ」によせて』を掲載。 [←石川 尚志]

★「日本語学」2018年5月号に、「国際語エスペラント一言語共同体の特性から」と題して後藤斉が11ページの論考を寄せた。エスペラントの紹介、歴史、現在の意義の他。言語ゲーム「ことのはアムリラート」についても触れている。 [←後藤 斉]

★「愛善世界」5月号に大類善啓が「1962年北京の出口榮二先生」と題し、日中国交回復前の1962年7月26日深夜の周恩来と大本の出口榮二との会談を報じた「人民日報」の記事を中心に紹介。 [←大類 善啓]

★「わんりい」に大類善啓が「混迷の時代を拓くザメンホフの人類主義『私は人類の一員だ!』」を連載中。4月号、5月号は出口王仁三郎について。 [←大類 善啓]

★5月発行の「図書館界」の「新刊紹介」に上田友彦著『あるエスペランティストの夢 エスペラントで発信する「将棋」「図書館」の世界』。 [←上田 友彦]

★5月26日付「しんぶん 赤旗」の「ひと」欄に「エスペラントで将棋を世界に紹介する 上田友彦さん(81)」。前項の新刊にもふれている。 [←上田 友彦]

## KLEG 事務局だより

★一般社団法人関西エスペラント連盟の会員総会が、5月20日(日)、連盟委員会に引き続き、開催されました。加盟団体17のうち13団体は出席し、2017年度の事業報告、決算および2018年度の事業計画、予算を承認し、また役員を選出しました。

★書店の設営・運営には、事務局の大西真一さん、田熊健二さん、東藤薫久さんのほか、相川節子さん、佐々泰弘さん、吉川獎一さんのご協力を得ました。

## KLEG 後援会へのご寄付

(2018年5月、敬称略)

中道民広	10,000円
野々村耀	3,000円
宮本聖子	1,150円
足立恵美子	1,000円
辰巳蔵書カンパ2(注)	900円
伊藤純子	600円
柴山純一	600円

ご支援、ありがとうございます。

(注) 故辰巳博さんの蔵書を引き取った人がカンパしたもので、海外図書寄贈基金に繰り入れられる。

## 楽しい作文教室9月号課題(7月20日締切)

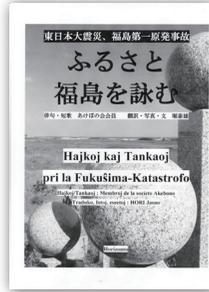
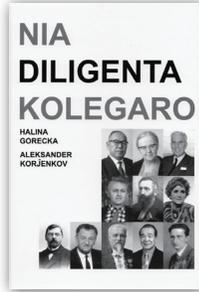
- ①アマチュア無線は彼の趣味のひとつだ。
  - ②通信でデジタル技術は広く使われている。
  - ③彼はノートパソコンを机の上に置く。
  - ④その猫はキーボードを踏みつけるのをためらわない。
- (ヒント) アマチュア無線家 radioamatoro、デジタル cifereca、キーボード klavaro. okupo、teknologio、komputilo、surpaŝi を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] c\_tak@esperanto.ne.jp  
(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。



## ★ 新刊・新着 ★

**Antaŭ unu jarcento** 2300 円  
J. Alcalde, J. Salguero 編。100年前の大戦争(第一次世界大戦)をザメンホフ、ランティ、バギーらエスペランチストはどう生き抜いたのか。多数の協働により論述。A5版、375p.

**Nia diligenta kolegaro** 4400 円  
H. Gorecka, A. Korjenkov 編。Grabowski から Fettes まで—200人のエスペランチストの履歴や活動、著作を簡潔に紹介。宮本正男、八木日出雄、伊東幹治らにも言及している。B5版、320p.

**Kiel verki hajkon en Esperanto** 500 円  
好評の広高正昭「エスペラント俳句の作り方」第2刷。hajkoの作り方、秀句鑑賞、自選100句と季語の索引。A5版、60p.

**ふるさと福島を詠む** 500 円  
退職女性教職員あけぼの会会員が「3・11」を詠んだ短歌・俳句に堀泰雄が被災地の写真とエッセーを加えて編集。実感がこもる。A4版、32p.

## ★ 宮本正男の作品 ★

**日本文学に現れたエスペラント** 800 円  
大江健三郎、中野重治、山本有三らの作品に描かれたエスペラント。年譜など付録も充実。

**Vivo kaj verkoj de Miyamoto Masao** 800 円  
没後10周年記念追悼文集。Auld, Benczikら執筆。

**La obstino** 800 円  
宮本訳の中島敦「山月記」「名人伝」「李陵」

**エロシエンコ短編集** 1188 円  
「枯葉物語」など宮本対訳による3編を収録

## ★ 小西岳の訳で読む日本文学 ★

**Noveloj de Akutagawa Ryūnosuke** 1000 円  
「蜘蛛の糸」「蜜柑」「早春」など対訳芥川集

**Kuru, Melos!** 350 円  
太宰治「走れメロス」、原作テキスト付き

## ★ 再入荷(一部価格を変更) ★

**La bona lingvo** 900 円

**Esprimo de sentoj en Esperanto** 900 円

**La faraono** 2400 円

**Fundamenta krestomatia de Esperanto** 1300 円

**Konciza raporto pri la detruado de Indio** 1900 円

**Kredu min, sinjorino!** 1800 円

**Mondo de travivaĵoj** 1800 円

**La morto en Venecio** 1100 円

**Vortaro de Esperanto** 3100 円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払い振替口座で。

## 編集ノート



★ 6月号の記事『「小西岳さんをしのぶ会」に41人』で、スピーチされた方の人数を「11人」から「13人」に訂正します。

★ 11ページの、ふぢもと・たつをさんの記事は、いただいた原稿を、編集部で縮約しました。

(島谷 剛)

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料62円 1年3800円 送料共本  
局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204  
電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp  
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org  
九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話(0957)43-4352  
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 771-0371 徳島県鳴門市北灘町櫛木字観音面14-1 木谷奉子方 電話(088)688-1098